

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100451		
法人名	有限会社絆		
事業所名	グループホーム絆 中ノ橋		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通1丁目13-10 2F		
自己評価作成日	令和4年11月14日	評価結果市町村受理日	令和5年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年2月10日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食の楽しみを持たせるように、食事やおやつに工夫を凝らしている。できるだけ、生活に必要な身体機能を低下させないように一日を過ごすことが出来る場を目指している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、盛岡市中心街に位置し、周辺には、バスターミナル、商業施設、医療機関、マンションが立ち並び交通量の多いエリアにある7階建てマンション(単身用)の2階ワンフロアに開設している。マンションの居住者との交流は望めないが、周辺関係機関等との交流について苦慮している。盛岡市を通じて町内会長、民生委員に働きかけており、コロナ禍や個人情報の保護等で成果が出せないでいるが、引き続き要請しているところである。運営推進会議に利用者・家族をメンバーとし、家族の意見を反映したきめ細やかなサービスに努めている。介護度が高い利用者が殆どの中、一人一人の利用者に合ったケア、楽しみにしている食事内容の工夫、利用者全員の健康状況や時間経過の中での生活状況がチェックできる日課表の作成など、ケアの充実に努めている。コロナ禍により、家族との面会制限が続く中、利用者個々に日常生活の写真やコメントを編集した「絆だより」をそれぞれの家族に送付し、利用者と家族の関係が深まっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない			○	4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	サービス向上の為、会社全体で共有できる理念に基づく具体的な目標を模索中であるが、今年度中には出来ていない。(来年度中に策定予定)	事業所開設以来の理念を継承し、観察をしっかり行ない、利用者個々に合ったケアを心掛けている。今年度は、理念に基づいたケアが提供できるよう、具体的な目標を策定する予定だったが、話し合いはできていない。来年度の課題ととらえている。	理念は、利用者ケアにあたっての事業所の基本的姿勢であり、常に立ち戻る根本的な考え方です。見直しするに当たり、今ある基本方針を踏まえ、地域や利用者、事業所の状況の変化によって現状に合った理念を、管理者・職員が話し合って策定することを期待する。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	盛岡市の協力を得て、町内会と民生委員の支援要請に動いたが、個人情報等の都合により協力を得る事が出来なかった。引き続き支援要請を行っていく。	事業所は、7階建てのマンション(単身世帯用)の2階フロアを占めており、マンション住民との交流はない。周囲は、商業用ビル等で地域との交流は困難である。コロナ禍以前あった保育園との交流は途絶えている。盛岡市を通して民生委員に運営推進会議委員を打診してもらっている。今後も、事業所から近隣への情報発信を行なっていく予定である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保育園児や一般ボランティアの来所が継続できるよう取り組んでいる。(コロナ情勢の為、現実には至らなかった。)			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。運営推進会議はコロナにより書面で実施している為、ご家族様の意見や要望を聞くことが出来ている。民生委員等の地域住民の参画は出来なかったが引き続き関係機関を通じて働きかける。社会資源については目を向けたが現実には至っていない。	会議の委員は、利用者の家族、地域包括支援センター職員、管理者で、コロナ禍により書面開催としている。所内で開催していた際は、利用者もさりげなく参加していた。頂いた意見は議事録とし、対応も含め次回に報告している。地域の委員が課題となっており、民生委員を依頼したいが、市から個人情報の保護で直接交渉出来ないでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議議事録提出により、当グループホームの現状報告を行い協力関係を構築している。	市の担当課とは、介護保険法の通知などに関して助言をいただいている。地域包括支援センター職員からは、介護全般にわたり指導を受けている。利用者参加のスローショッピングなど提案をされているが、利用者の現状から参加は難しく実施には至っていない。		

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議と併せ、身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束をしないケアについて正しい知識を深めている。	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月の職員会議に併せて開催している。研修は、管理者が講師となり、身体拘束をしないケアについての基本的事項をテーマに行なっている。スピーチロックなど、気づいた時点で注意喚起している。ヒヤリハットが生じた場合は、対応職員が記録し家族に報告、職員会議でも取り上げ、対応策を検討している。リビングの玄関近くに職員の作業机があり、利用者の見守りにもなっている。非常階段は施錠していないが、玄関のドアは施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎朝の申し送り打ち合わせや、月一の職員会議を通して高齢者虐待防止について確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止と同様に、申し送りや職員会議の中で権利擁護に関する理解を確認し日々のケアに活用するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際にご家族へ適切な説明をし、不安や疑問点を解消できるよう説明を行い理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から受けた意見、要望を受け運営に反映している。絆だよりに個々へのコメントを添え発行し、面会に来られない遠方のご家族様には個別に写真と近況報告を文書にてお知らせし、事業所と家族の関わりが強まった。	利用者から、「孫の世話があるから帰らねばね」「何で此処にいないかならないおかしい」などの言葉が聞かれる。その都度、「病院で治療が必要だから」等と対応している。運営推進会議で家族からの意見を聞き、対応している。遠方の利用者家族とは、主に電話や手紙で連絡している。家族には、利用者個々の写真や生活状況を記入した「絆だより」を送付し、家族との関係もより良好になっている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員意見の把握と円滑なコミュニケーションを図る為、管理者面談に力を入れてきたが、すべての意見の反映には至らなかった。引き続き、本社面談も含め行っていく。	職員とは、管理者との面談の他、本社との面談を実施し、意見を聞く機会を拡大した。管理者とは、具体的な日常業務、介護の方法の工夫などの確認や意見で、本社面談では、職場環境についての意見が多く聞かれた。夜勤(一人)は万が一のとき柔軟な対応ができるよう訓練が必要と思っている。外部研修への派遣は難しかった。今後、外部研修や資格取得をめざすことなど継続して支援して行きたい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の勤務状況を把握しながら、労働時間、労働環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は行えたが、外部研修については人員不足等諸事情により参加させる事が出来なかった。来年度は積極的に参加させるよう努力したい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわて地域密着型サービス協会やいきいき財団主催の研修参加を通して、同業者と交流する機会を設ける取り組みをしている。(今期はコロナ情勢の為、参加できていない)		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安なことや、要望等には応えるようにしているので、信頼関係が出来てきている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って、利用者本人の希望に沿うことにより家族との信頼関係も構築できている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時必要としていることを見極め、今現在対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族同様の対応で過ごしている事で、良好な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望に応えると共に、家族様の都合や立場を考え支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍が収束しなかった為、「寄り道計画」の作成はせず、施設内で行えるレク活動等の支援に力を入れた。今後は情勢を見ながら、知人の訪問などお勧めしていく。	コロナ禍により、外出が思うようにできなかった。1名は、家族からの申し出でお盆に墓参りができた。「寄り道計画」として個人の希望するところに行く試みは、コロナ禍で実施できなかった。現在は、外出希望を言語化できる利用者がほばいない。今後は、コロナ前に実施していた全員での花見や紅葉狩りなども寄り道計画の一つとし、同系列の事業所への訪問なども予定に加えていきたい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性を理解した上で、憩いの時間等の対応に工夫し支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況変化に随時対応し、個々に適した行先の選択について情報提供に努め、相談支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向が確認できる範囲で、利用者に寄り添い、会話やつぶやきから意向を把握するよう努めている。	意思表示できる利用者は少なく、独り言や快・不快等の表情、多弁になる、もぞもぞするなどの仕草から把握するよう努めている。水分不足も不穩につながる。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限り職員全員がアセスメントを踏まえ、情報共有や状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が業務内において、一人一人の状態観察を行い、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議とケアカンファを行い、現状に即した計画を作成している。	介護計画は管理者兼ケアマネージャーである管理者が作成している。入居時の暫定プランは、主にホームの生活に慣れることを目的としている。計画は、家族に説明し同意を得て、朝の申し送りや会議で職員と共有し、日々のケアにあたっている。見直しは6ヵ月を基本としているが、状態の変化や薬の変更等で早期に見直しすることもある。業務日誌を兼ねた利用者全員の健康状態・生活状況が一覧で分かる時間ごとのチェック表を作成し、食事量、排泄・入浴の有無、特記事項により、全利用者の1日の生活が把握できている。	全利用者の1日の状況が一覧できるチェック表を工夫され、ケアの提供の充実が図られている。介護計画に沿ったケアの提供を一層図るため、計画作成にかかる経過の中で、職員がアセスメントやモニタリングに係わるものが常態化することを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員が業務内において、一人一人の状態観察を行い、職員間で情報共有し、計画の見直し等を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスでは出来ないニーズに対して、出来る範囲でのサービス提供を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源がなかなか見つからず、協働できていない。		

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	協力医による定期的な訪問診療の利用を基本と しながら、個々のかかりつけ医との連携もでき るよう配慮している。	入居時に、かかりつけ医の継続受診について、 利用者・家族に確認している。家族が同行の通 院と、かかりつけ医の往診や協力医（訪問診療） との連携で、適切な医療が受けられている。歯科 医の訪問診療も受けている。週1回、訪問看護師 による健康観察を行なっている。体調に変化が あった場合は、随時、家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情 報や気づきを、職場内の看護職や訪問看 護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	訪問看護師と情報共有しながら、随時適切な対 応が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、又、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談に 努めている。あるいは、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との情報交換や、相談に努め関係作 りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と 支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	看取り加算対応はしないが看取りの経験はあ る。重度化の対応と併せて事業所で出来るこ とに対応し、必要に応じて家族と連絡をとり支援し ている。	重度化した場合の対応について、「医療連携体 制（看取り）に関する指針及び重度化した場合の 指針」に沿って、入居時に家族に説明している。 看取り加算対応はしていないが、家族の希望で 今年度は1名看取りを行い、かかりつけ医、訪問 看護、職員で最期を見届けている。看取り後、家 族が遺品の整理に来所した際に、家族への精神 的ケアを行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練を 定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所で出来る範囲の対応の訓練を行ってい る。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内研修に於いて、対応方法について全職員が研修している。地域との協力体制は構築できていない。	年2回避難訓練を実施しており、1回は火災を想定し、業者立会いで消火器の使用を学んだ。2回目は、夜間想定で夕方暗くなりかかったころ、靴を履いて非常口のところに集まる訓練をした。マンションの上階でボヤ騒ぎがあり、避難の準備をしたことも訓練になったのではと思っている。マンションの住民とは交流が無く協力体制は図られていない。	夜間想定 of 訓練に加えて、実際の暗さの体験をし課題の気づきとその対応を検討されたい。夜勤時、災害が発生した際のマニュアルを、職員一人一人が作成することなども、所内研修のテーマとして検討されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の個性に合わせた言葉かけや対応をしている。	利用者の使い慣れた言葉(ねまれ＝座って等)やその人が分かる呼び方を用い、親しみをこめて声掛けしている。トイレ誘導時や入浴時の更衣時には、羞恥心に配慮している。居室に入る際には、必ず声を掛け、夜間見回り時に反応がないときには、ドアのガラス小窓部分の小カーテンを開けて様子を観察できるようにし、安全面とプライバシーの確保に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の個性に合わせて、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の要望を優先し、希望に添った支援を行うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みを尊重し、身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強いとは出来ない為、利用者と職員と一緒に準備や片付けは出来ない。	献立は、担当職員が食材を見て決めている。調理・後片付け等を一緒に出来る利用者がいないため、職員が中心になって行なっている。冷凍の野菜や魚の煮付けを活用している。食事は、美味しいと全員が完食している。特に行事食を意識していないが、食の楽しみを持ってもらうため、献立を工夫し、おやつは手作りしている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、栄養バランス、水分量を毎日考慮し、良好な状態を保てるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の助言を受けながら、毎食後口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立で排泄できる方に対しては、自立に向けた支援を行い、自立出来ない方に対しては状態に応じた排泄支援を行っている。	全員リハビリパンツを使用しており、パンツやパットの種類(2回用、4回用等)の組み合わせを試みながら、一人一人に合った介助を行なっている。ポータブルトイレを利用していた利用者を誘導し、トイレでの排泄を支援できた例もあった。きちんとした技術をもってサービスすると改善できるという信念を持って関わっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の乳酸菌飲料の提供、昼食のヨーグルト等の提供で便秘予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に沿った支援はなかなか難しいが、状況に合わせた対応をしている。	入浴は、月・火・木・金の午前中を原則とし、利用者は週2回入浴している。場合により3回入浴する利用者もいる。状態により、シャワー浴や全身清拭を行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室に戻られてからの自由は確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬がある方に対して、職員が服薬支援を行い毎日の状態を観察しているので症状の変化の確認は出来ている。		

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の嗜好品に対しては支援できているが、外出による気分転換等の支援は不十分だと思う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の現在、家族との外出や散歩も含め難しくなっている。施設内での外気欲や散歩が出来ない状態である。今後も課題として取り組んでいく。	コロナ禍のため外出を制限しており、通院時家族と一緒に外出する程度で、事業所としての行事を組めないでいる。利用者の意向を確認しても、「行きたい」とのことばは聞かれない。室内で唱歌を歌ったり、気分転換を図っている。盛岡の中心街に立地しており、交通量が激しく、特に冬場は散歩も困難と思われる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていないので、使えるような支援はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、電話をかける事や、手紙を書く読むことの出来る利用者様がいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブル椅子の配置など工夫し、ゆったりと過ごせるよう支援している。	事務室からそれぞれの居室が見渡せ、事務室、居室、トイレ、浴室に囲まれた共用のホールに、ソファ、テレビ、食卓、職員の作業機が配置されている。床はクッション材を使用し、バリアフリーとなっており、エアコン、加湿器で室温は25度に設定され、快適な生活環境となっている。利用者は、新聞を読んだり、テレビを見たり、職員と一緒に歌ったり、思い思いに過ごしている。以前は壁面に、季節を感じる作品等を掲示していたが、異食する利用者がいることから、掲示物は取り外しすっきり落ち着いた雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士が思い思いに過ごせる共用空間を提供し、居場所の工夫をしている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム絆 中ノ橋

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	使い慣れたものを居室に置くなどし、本人が居心 地よく過ごせるよう工夫している。	居室は、窓が高く、十分な明り取りになっている。 ベッド(スリーモーターのギャッチベッド)、低反発 のマットレス、クローゼット、時計、ナースコール、 エアコンが備え付けになっており、寝具や寝衣は 持ち込みとしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	安全かつ自立に向けての生活空間として、過ご せるように工夫している。		